

前号に引き続き、1903（明治 36）年 12 月 23 日付「東上鉄道株式会社仮免許申請書」「東上鉄道敷設計画図」（部分）（小川町は■）をもとに、「現在の東武東上線の経路となぜ違うのか。」という課題に取り組みましょう。

＜学習課題 2＞
現在の東武東上線の経路となぜ違うのか。

地名の標記が右から左となっているので読み取りづらいですが、この資料からなじみのある地名が読み取れると思います。「池袋」「上板橋」「川越」「松山」「菅谷」「能増」「今市」「小前田」「児玉」などです。他方で、「小川」や「寄居」が計画に入っていないことも読み取れます。なぜ当初の計画が変更され、現在の路線になったのか。これがこの学習課題です。

考察するための背景として前号で触れたように、①東上鉄道設立の目的が「運輸交通国防軍備」にあるため、できるだけ再短ルートを計画していること、②当時すでに「運輸交通」の面で、日本鉄道が上州、信州の産物（特に生糸）を直接横浜まで輸送していたこと、をふまえていと思います。

＜資料 1＞1908（明治 41）年 1 月 22 日埼玉新報記事「当地方は日本紙の名産地なるが上に、近来養蚕、製糸、其他植林業に従事する者多く各戸とも至って富裕なり。」

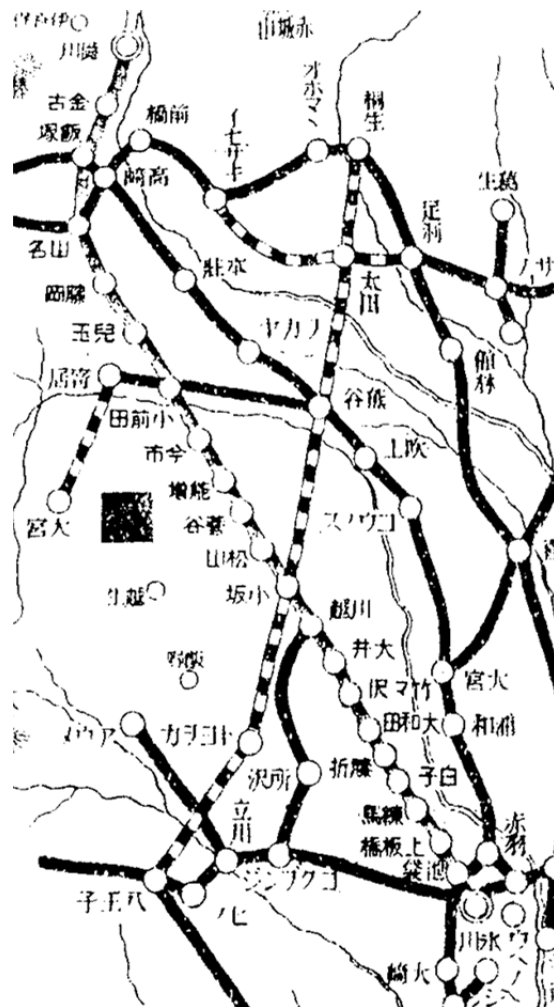
＜資料 2＞1910（明治 43）年大河村東上鉄道株式会社応募状況：44 人、480 株（1,920 円）

＜資料 3＞1922（大正 11）年 12 月小川町駅開業に関する町会決議（部分）

今回東武鉄道ニ於テ我小川町ニ線路ヲ延長シ停車場ヲ建設スルニ就テハ左ノ件ヲ決議ス
一、鉄道線路及停車場敷地買上ニ就テハ、会社買上価格以外時価ニ近キ程度迄町村ニ於テ補償スルコト

一、右補償以外宅地及宅地接近築立切下シノ田畑ニ対シテハ、相当ト認ムル金額ヲ特別ニ補償スルコト（以下略）

資料 1～3 から、小川町が和紙だけでなく養蚕製糸等の産業も栄え富裕だったこと、それらの物産の「運輸交通」の面で、小川町の人々や町議会までもが小川町駅の誘致に熱心だったことがわかります。国家が求めた「国防軍備」ではなく、地域住民の「運輸交通」に寄せる思いが計画の変更を実現し、翌 1923（大正 12）年の小川町駅開業につながったのでしょう。



＜参考文献＞『小川町の歴史』